



池戸一成 後援会 会報

しぶがき通信

秋号

発行日：令和4年11月

発行者：池戸一成後援会事務所

各務原市蘇原柿沢町1-15

TEL：371-2749

HP：http://ikedo.info/



「コロナ対策でいくら使われたのか」を考える ～令和元年度からの推移 各務原市の決算～

新型コロナウイルス対策関連の事業がなかった令和元年度と、様々なコロナ対策事業が行われた令和2・3年度の決算を比較します。

各務原市の6つの会計(※1)の決算を一つにまとめて、市全体で「何に、誰に、いくら使ったのか」をわかるようにしました。金額をイメージしやすくするために、総額を人口で割算した『市民1人あたりの金額』を計算してグラフにしました。なお、ページ内の()内の金額は『市の総額』です。

なおこれらの集計金額は、繰入金や減価償却費などの実際には費用を伴わない項目を省いて、独自の方法で集計していますので、市の発表とは金額が違ってきます。

(※1)6つの会計とは、『一般会計』、『国民保険』、『介護保険』、『後期医療保険』、『水道』、『下水道』の各会計のこと。

【特別定額給付金】～コロナ対策の一例

R2年度は全世帯対象に10万円／人の「特別給付金」が支給された。(総額：約148億円)

R3年度は低所得者世帯に限定した「特別給付金」が支給された。(総額：約32億円)

【産業活性化】～コロナ対策の一例

R2年度は感染予防のための飲食店などの時間短縮営業に対し、県が協力金を支給した。(市の負担総額：約1.6億円)その一方、景気回復と生活支援を狙った「プレミアム付商品券事業」が行われた。(総額：約7.5億円)

R3年度も飲食店などの時間短縮営業に対し、県が協力金を支給した。(市の負担総額：約8,700万円)その一方、景気回復を狙った「キャッシュレスポイント20%還元」を行った。(総額：約3,700万円)

【子供のため】～コロナ対策の一例

R2年度は児童・生徒にタブレット端末を配布し、学校にWi-Fi環境の整備をした。(総額：約10.7億円)

R3年度はタブレット端末を効果的に活用できるようICT支援員を配置した。(総額：約4,800万円)また、小中学生が自宅や学校で工場見学できるオンライン寺子屋(動画作成など)を行った。(総額：約180万円)

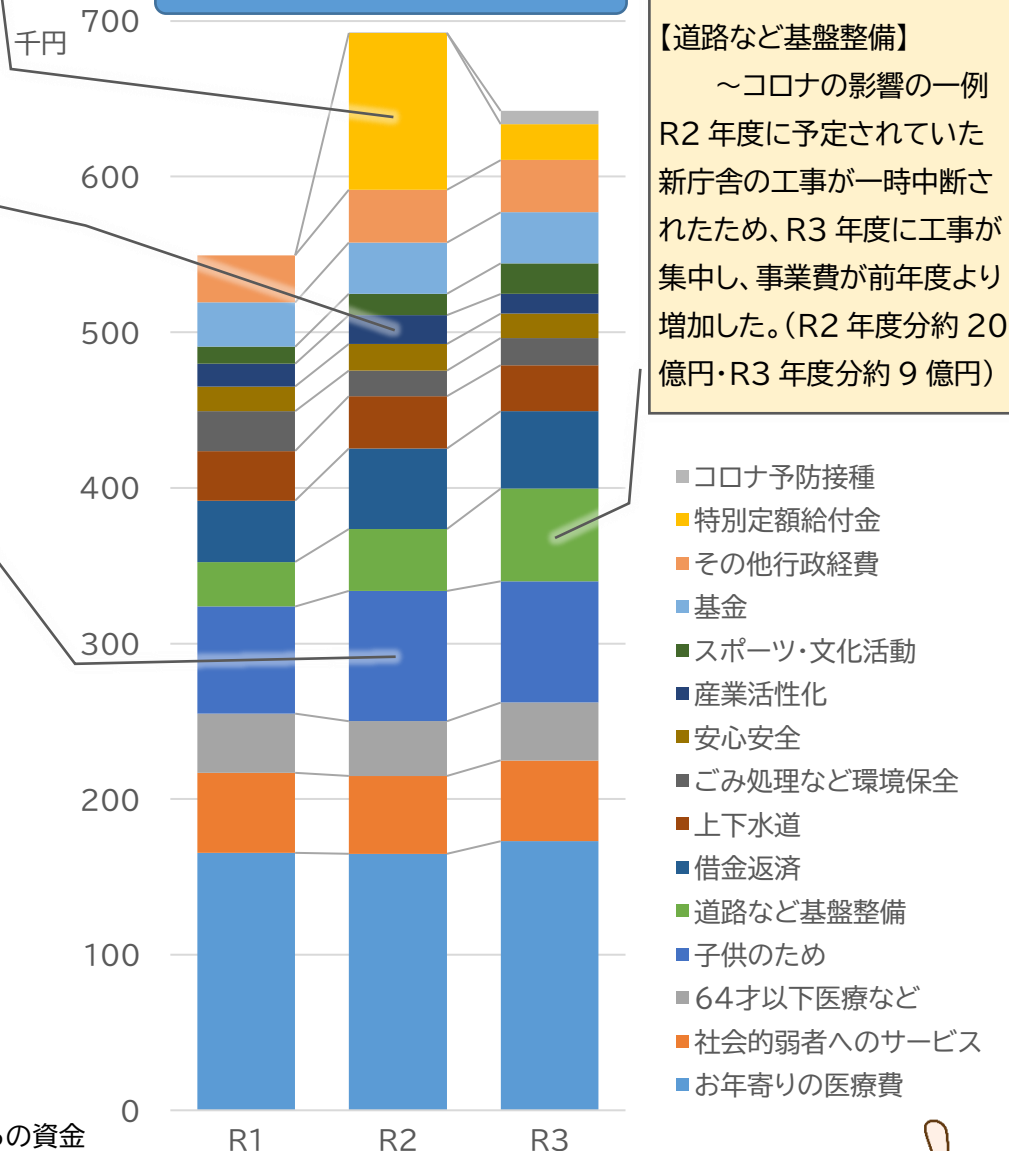
ワンポイント解説

【お年寄りの医療費】～コロナの影響

R2年度はコロナ感染の警戒もあり、医療機関への受診控えもあり、減少した。

R3年度はワクチン接種も進み、再び増加した。

R1～R3年度の支出の推移

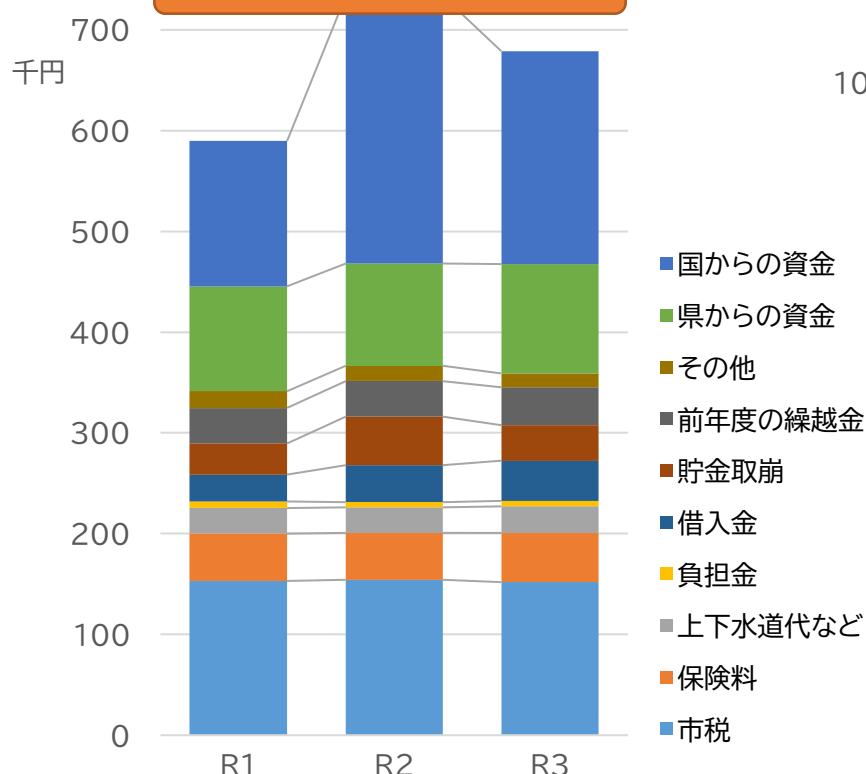


【道路など基盤整備】

～コロナの影響の一例

R2年度に予定されていた新庁舎の工事が一時中断されたため、R3年度に工事が集中し、事業費が前年度より増加した。(R2年度分約20億円・R3年度分約9億円)

R1～R3年度の収入の推移



ワンポイント解説

【国からの資金】～コロナで激増

R1年度：366億円→R2年度：539億円→R3年度：466億円と推移している。

これは新型コロナウイルス対策のための国費が増えたためである。特別定額給付金給付事業や低所得世帯への臨時特別給付金のほか、コロナに関する「ワクチン接種」や「プレミアム付商品券」などの景気対策のほとんどは100%国費を活用して行われたため、R1年度に比べてR2.R3年度の「国からの資金」が激増した。

市役所本庁舎南側(住吉町、大東町)の道路拡幅整備



市役所周辺の円滑な交通と歩道のネットワーク構築のため、市道那 813 号線から国道 21 号までの区間を拡幅整備することにより、両側に歩行者空間を創出する事業です。この区間の道路に対しては、歩行者の安全確保や

新庁舎へのアクセス機能の向上だけでなく、市役所周辺の土地利用の促進、中心市街地の賑わい創出などにも地域から期待の声を頂いていました。

「市道那 816 号線」は、各務原市内における重要な路線です。当該箇所は、歩道が整備されておりま

せんで大変危険な状況が続いている道路となっていました。当該箇所の整備により、歩道空間の連続性が確保され、歩行者の安全性が図られるため、早急に整備を行う必要があります。

この事業には国交省の社会資本整備総合交付金等を活用しています。

記事担当:津田忠孝



大東町の歩行者通行帯

「チョイソコかかみがはら」運行エリア拡大！

高齢化に伴う利用者の減少によるバスなど既存の公共交通の衰退や高齢者運転免許返納が進むなど、交通難民の増加が問題になる昨今、過疎地域だけでなく都市の一部でも課題となりつつあり、そこには「新しい交通のしくみづくり」が必要だと言われています。

そんな中で、令和 2 年 10 月 1 日から、ふれあいタクシー鶴沼南エリア(各務原町・朝日町・大伊木町・小伊木町・丸子町)において、自動車部品や、カーナビゲーションなどを手がける(株)アイシンが提供するオンデマンド型の乗り合い送迎サービスのシステムを使った実証実験が「チョイソコかかみがはら」として行われてきました。さらに、令和 3 年 10 月 1 日から市内タクシー事業者による輪番制の実証実験も行い運行しており、ご高齢の皆さまをはじめ地域の移動手段として活用されています。

そして、この度、その「チョイソコかかみがはら」が令和 4 年 10 月 1 日から八木山・須衛・各務・エリアにて運行スタートいたしました！

また、八木山地区では、地区社協により、地域限定の独自の公共交通手段「八木山ささえあいバス」も自主運行しており、「チョイソコ」が加わることで、地域の移動支援のみならず地域コミュニティの充実にも期待が膨らみます。

今後、公共交通の充実には、行政のみならず、地域と地域の企業の更なる連携が重要になって参ります。



地域で自主運行している独自の公共交通手段「八木山ささえあいバス」

記事担当:大竹大輔

蘇原交番南の踏切が拡幅

蘇原交番の南の踏切が拡幅されます。これまで長きにわたって歩行者や自転車の踏切横断が危険で、不便であることの改善要望が多かった箇所でした。

踏切の拡幅工事は、鉄道事業者が行いますが、かかる費用は市が負担します。

令和 4 年 9 月議会において JR 東海

との 1 億 7,868 万円の工事委託契約が可決されましたので、今後は JR 東海により設計が行われ、来年 9 月くらいから工事が始まる予定です。

工事期間は 10 カ月間ほどかかる予定で、その間は 24 時間通行止めになりますので、工事期間中は地元住民をはじめ近隣企業へ通勤される

方々にはご不便となりますので、早期の工事完成を希望します。

蘇原中央通り(通称:ろっけん通り)の歩道の改良工事が進んでいます。

新型コロナやウクライナ危機の影響もあり、あらゆる業界では資材不足が続いていますので、工事遅れがちになっています。本年度・来年度でいちよう通りから高山線踏切までの区間は完成予定のようです。

記事担当:池戸一成



道路より狭い JR 高山線踏切(月丘団地北)



歩きやすくなったろっけん通りの歩道

境川流域の治水対策

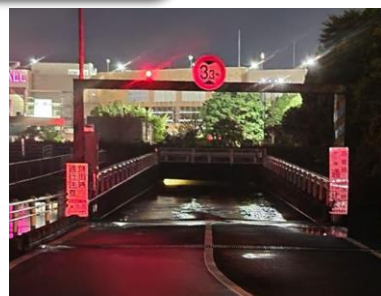
今年 8 月 25 日に発生した集中豪雨により、境川の水位が急激に上昇し、各務原市と隣接する岐阜市蔵前の馬橋観測所にて氾濫危険水位に達し、流れ込む三井川など上流で降った雨が排水されない内水氾濫による浸水被害や道路冠水が発生しました。

近年の集中豪雨による出水では、大河川の上流にダムを作ったり、堤防をかさ上げしたりするなどの防災施設の整備による対応では限界があり、そこへ流れ込むまでの河川流量を抑制し、下流に流れ込むまでの時間を遅らせる、流域治水による対応が求められています。令和 3 年 2 月に、国では「特定都市河川 浸水被害 対策法等の一部を改正する法案(流域治水関連法案)」を閣議決定しました。各務原市は境川流域に位置し、その下流にある岐阜市、岐南町、笠松町、羽島市などは本市より海拔が低いため、本市の治水対策が下流域にとっても洪水対策の効果があり、境川流域のあらゆる関係者が協働して流域治水に取り組んでいます。

稲羽地区では、稲羽西小学校や稲羽中学校などに校庭貯留施設を計画的に整備し、大雨のピーク時に校庭に一時的にため、河川への流出を遅らせることで、下流域での浸水被害の軽減を図っています。

同時に、洪水ハザードマップで問題ないように見える地域でも、本当は内水氾濫で浸水してしまう可能性があります。そのため、「各務原市洪水ハザードマップ」の更新時には、過去 3 年間に発生した浸水による通行止めを行った箇所を記載します。また、浸水危険箇所が明示されている「通学路安全マップ」でも注意喚起していきます。

記事担当:岩田紀正



アンダーパスの冠水

